

年 月			内 容
昭和	13 年	4 月	旧日本海軍が宅地約 13,200 m ² 、耕地約 1,217,700 m ² を買収して岩国飛行場の建設に着手
	14 年	12 月	呉鎮守府所属練習隊が配置
	15 年	7 月	岩国海軍航空隊が発足
	16 年	2 月	偵察練習生教育隊が配置
	18 年	11 月	海軍兵学校岩国分校が開校
	20 年	9 月	終戦後、米海兵隊が進駐し、基地を接收 (基地は次第に拡張され、終戦時には、4,514,400 m ² に至っていた)
	21 年	2 月	英連邦空軍(英空軍・豪空軍・英印部隊・ニュージーランドなどの混成部隊)及び米空軍が進駐。基地の主導権を英空軍が握る
	25 年	9 月	朝鮮事変の勃発とともに国連軍として英海軍部隊・米空軍及び米海軍部隊の一部が派遣されてきた
	26 年	9 月	対日講和条約・日米安全保障条約を締結
	27 年	4 月	日米安全保障条約に基づく在日米軍の基地となり、英豪空軍が撤退し、米空軍の基地となる。また、民間空港として開港され、日本航空(株)の東京・福岡線の中継地となる
	27 年	6 月	羽田空港とともに国際空港となる
	29 年	12 月	米海軍の基地となる この年、極東航空(株)が大阪・岩国間の就航を開始。他にCAT(中華)、QANTAS(オーストラリア)、KNA(韓国)も使用
	31 年	7 月	米海兵隊第1航空師団・米海軍第6艦隊航空大隊が移駐(昭和27年～昭和31年の間基地施設の拡充が行われ、現在の規模となる)
	32 年	3 月	海上自衛隊教育航空群が共同使用を開始
	33 年	1 月	米海兵隊に基地の主導権が移り、米海兵隊岩国航空施設となる
	37 年	7 月	名称を米海兵隊岩国航空基地(MCAS IWAKUNI)として正式に海兵隊の航空基地となる
	39 年	12 月	海上自衛隊教育航空群の代わりに航空自衛隊第82航空隊(F86Fジェット戦闘機25機、T33ジェット練習機6機、隊員約500名)が新田原基地から移駐 民間航空が路線の変更を行い、この年以降定期便は就航していない
	40 年	9 月	F-4Bファントムジェット戦闘攻撃機、A-4Cスカイホーク攻撃機各35機を配備
	41 年	7～8 月	米海軍第6艦隊航空大隊にP-3Aオライオン対潜哨戒機9機を配備
	42 年	12 月	航空自衛隊第82航空隊が小牧基地へ移駐
	43 年	6 月	海上自衛隊第51航空隊岩国分遣隊が開隊
	48 年	3 月	海上自衛隊第31航空群(PS-1対潜哨戒飛行艇6機、小型練習機1機、隊員約500名)が開隊(昭和48年3月～昭和49年3月すべり地区約33,000 m ² を埋め立て、PS-1の駐機場として使用)
	49 年	8 月	米海兵第513攻撃機中隊が配備(AV-8Aハリアー垂直離着陸戦闘攻撃機16機)
	50 年	7 月	米海軍第6艦隊航空大隊哨戒部隊が三沢へ移駐を開始(P-3Aオライオン6機移駐、一部残留)
	51 年	4 月	米海兵隊第1航空師団司令部が沖縄のキャンプ瑞慶覧へ移駐(隊員約1,000名)
	51 年	6 月	米海軍第6艦隊航空大隊哨戒部隊が三沢へ移駐完了
	51 年	7 月	海上自衛隊第31航空群第71航空隊が開隊(US-1救難飛行艇を配備)

年 月		内 容
52 年	5 月	米海兵第 513 攻撃中隊が米国アリゾナ州ユマ基地へ移駐（A V－8 A ハリアー移駐）
54 年	5 月	米海兵隊第 1 航空師団第 17 師団支援大隊が沖縄へ移駐（隊員約 500 名）
55 年	10 月	愛宕通信所約 130,000 m ² を岩国飛行場に統合
56 年	4 月	第 12 司令部整備中隊所属の T A－4 M スカイホークを O A－4 M スカイホークに機種変更
58 年	3 月	第 1 海兵航空師団兵器部隊（MWWU－1）がグアムアガナ海軍航空基地へ移駐
58 年	3 月	海上自衛隊第 51 航空隊岩国分遣隊が廃止
		海上自衛隊第 31 航空群第 81 航空隊開隊（U P－2 J・3 機配備）
58 年	8～9 月	滑走路補修工事のため滑走路閉鎖
59 年	2 月	海兵第 2 戦術電子戦中隊 Z 分遣隊（E A－6 B・4 機）ノースカロライナ州チェリーポイント基地へ移駐
59 年	10 月	海兵第 2 戦術電子戦中隊 Z 分遣隊（E A－6 B・4 機）ノースカロライナ州チェリーポイント基地から移駐
61 年	8～9 月	滑走路補修工事のため滑走路閉鎖
62 年	3 月	U－36 A が試験飛行のため、海上自衛隊第 31 航空群第 81 航空隊に配備
62 年	7 月	米海兵第 115 攻撃中隊の配備に伴い、F－4 ファントムにかわって、F A－18 ホーネット（12 機）が配備
63 年	4 月	U－36 A（2 機）が海上自衛隊第 31 航空群第 81 航空隊に正式配備
63 年	5～10 月	滑走路改修工事のため滑走路閉鎖 その間、米海兵第 332 攻撃中隊等が嘉手納基地ほか海外の基地へ分散移駐（イントルーダー、スカイホーク、ホーネット等 74 機） 海上自衛隊も八戸、下総、徳島基地に移駐（U P－2 J、U－36 A・6 機）
63 年	9 月	米海兵第 12 飛行大隊と第 15 飛行大隊が統合され、第 15 飛行大隊が廃止
63 年	11 月～	海上自衛隊第 1 航空群移動部隊（P－2 J・5 機）が滑走路改修のため、鹿屋航空基地から岩国基地へ一時移駐
平成元年	5 月	
元年	3 月	P S－1 用途廃止に伴い、第 31 航空隊が解隊
元年	6 月	米海兵第 331 攻撃中隊の配備に伴い、A－4 M スカイホークにかわって、A V－8 B ハリアーⅡ（14 機）が配備
元年	9 月	海上自衛隊掃海ヘリコプター部隊第 111 航空隊が、V－107（2 機）を伴い移駐
元年	12 月	海上自衛隊へ MH－53 E の一番機が飛来
3 年	10 月	米海兵第 214 攻撃中隊（A V－8 B ハリアーⅡ・ナイト・アタック 20 機）がアリゾナ州ユマ基地から移駐
3 年	11 月	海上自衛隊第 81 航空隊に E P－3（2 機）が初配備
3 年	12 月	海上自衛隊第 81 航空隊に L C－90（1 機）が配備
4 年	3 月	米海兵第 121 全天候戦闘攻撃中隊（F A－18 D ナイト・アタック・ホーネット）がカリフォルニア州エルトロ基地から移駐 米海兵第 224 全天候攻撃飛行中隊（A－6 E 11 機）がノースキャロライナ州チェリーポイント基地に帰還 B－65（1 機）が海上自衛隊第 81 航空隊から除籍
4 年	7 月	米海兵第 2 戦術電子戦中隊 X 分遣隊（E A－6 B プラウラー 6 機）が米海兵第 1 戦術電子戦中隊になった

年 月		内 容
		海上自衛隊第 8 航空隊の新編に伴い P-3C (3 機) が配備
5 年	3 月	P-3C 10 機目が当初配備計画通り配備
8 年	5 月	AV-8B ハリアー II (14 機) が米国に帰還
9 年	6 月	滑走路移設工事に着手
10 年	12 月	海上自衛隊第 31 整備補給隊新編
11 年	2～4 月	滑走路補修工事のため滑走路閉鎖
11 年	4 月	海上自衛隊第 81 航空隊に UP-3D (2 機) が配備
13 年	3 月	海上自衛隊第 8 航空隊廃止
		海上自衛隊第 81 航空隊改編
		海上自衛隊第 91 航空隊新編
13 年	9 月	HH-46D シーナイトヘリコプター (3 機) が米国に帰還
14 年	2～3 月	CH-53D シースタリオンヘリコプター (8 機) が配備
14 年	3 月	海上自衛隊第 81 航空隊に OP-3C (1 機) が配備
		海上自衛隊岩国システム通信分遣隊新編
		海上自衛隊第 31 航空群の改編 (江田島の第 11 海上訓練指導隊が標的機整備隊と改称し、第 31 航空群の隷下に入る) (江田島)
17 年	9 月	LC-90 連絡機が装備変えて海上自衛隊第 91 航空隊から厚木基地へ移動
19 年	3 月	海上自衛隊第 71 航空隊に US-2 が部隊配備
19 年	9 月	米海軍第 14 掃海ヘリ中隊に所属する MH-53E 型ヘリ 2 機から成る第 1 分遣隊が臨時展開により岩国基地に到着
20 年	3 月	海上自衛隊第 111 航空隊に MCH-101 (2 機)、CH-101 (1 機) が配備
20 年	10 月	臨時展開していた米海軍第 14 掃海ヘリ中隊の MH-53E 型ヘリ 2 機が離日
21 年	5 月	CH-101 (1 機) が海上自衛隊第 111 航空隊からしらせ飛行科へ所属変更
22 年	5 月	滑走路を約 1,000m 沖合へ移設する工事が完成し、新滑走路の運用開始
23 年	3 月	滑走路移設事業の完了
24 年	7 月	普天間飛行場に配備する MV-22 オスプレイ (12 機) が岩国飛行場に陸揚げ
24 年	10 月	MV-22 オスプレイ (12 機) が岩国飛行場から普天間飛行場に移動完了
24 年	12 月	民間用の岩国錦帯橋空港開港。(羽田-岩国間を ANA 1 日 4 往復運航)
25 年	7 月	普天間飛行場に配備する MV-22 オスプレイ (12 機) が岩国飛行場に陸揚げ
25 年	9 月	MV-22 オスプレイ (12 機) が岩国飛行場から普天間飛行場に移動完了
26 年	8 月	米海兵隊第 152 空中給油輸送中隊 (KC-130J・15 機) が普天間飛行場から移駐
28 年	3 月	民間航空 (ANA) の 1 日 4 往復の運航に加え、羽田便、那覇便 (各 1 日 1 往復) の運航が開始され、1 日 6 往復の運航を開始
29 年	1 月	F-35B ライトニング II (10 機) の配備に伴い、FA-18 ホーネット 1 部隊が米本国へ移動
29 年	8 月	E-2D が厚木飛行場から岩国飛行場に移駐
29 年	11 月	F-35B ライトニング II (6 機) が配備

年 月		内 容
令和	29 年 12 月	F A-18E スーパーホーネット部隊 2 個中隊が厚木飛行場から岩国飛行場に移駐
	30 年 3 月	E A-18G グラウラーが厚木飛行場から岩国飛行場に移駐 C-2 が厚木飛行場から岩国飛行場に移駐
	元 年 9 月	F A-18E, F スーパーホーネット部隊 2 個中隊が厚木飛行場から岩国飛行場に移駐 K C-130 部隊による海上自衛隊鹿屋基地でのローテーション展開開始
	4 年 5 月	F-35B (16 機) が配備
	6 年 7 月	米側は、今後数年をかけて常駐部隊の F-35B を若干減少させつつ、ローテーション部隊の F A-18 を F-35B に更新する旨公表
	6 年 11 月	空母艦載機部隊のうち F A-18E スーパーホーネット 1 個飛行隊を F-35C (14 機程度) に、C-2 を CMV-22B (4 機程度) に機種更新